

横浜市・地域日本語教室事例発表会 ～「わたしたちの教室」の魅力さがし～ 実施報告書

公益財団法人横浜市国際交流協会

事業名：横浜市・地域日本語教室事例発表会

日時：2014年1月19日（日） 午後2時～午後4時半

主旨：①地域日本語教室の特徴的な取組を紹介し、お互いに知りあい・情報交換できる機会を設ける
②日本語学習支援に興味関心のある方に、市内における地域日本語教室の取組みを周知する

主催：公益財団法人横浜市国際交流協会（YOKE）

後援：公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会

会場：男女共同参画センター横浜（フォーラム）

参加者数：40名

当日のプログラム：

14:00 開会

14:15 第1部 ポスター発表

（発表内容）多文化共生のまちづくりをめざした日本語教室での取組事例

- ・金沢国際交流ラウンジ日本語部会
- ・特定非営利活動法人こんにちは・国際交流の会
- ・鶴見国際交流ラウンジ 外国人親子カンガルーサロン
- ・平成24年教室実習型研修「横浜で暮らす人のための初期日本語教室」YOKE

15:10 第2部 日本語教育の専門家をまじえたディスカッション

ファシリテーター 嶋田和子氏

（一般社団法人アクラス日本語教育研究所代表理事／社団法人日本語教育学会副会長）

16:30 閉会

第1部「市内の地域日本語教育に関わる団体によるポスター発表」：

「ポスター発表」という発表形式で、市内で活動する地域日本語教室の団体が取組を紹介しました。活動の主旨や取組内容をまとめたポスターを使って、参加者の方々に口頭で説明をしたり、参加者からの質問に熱心に答えたり、会場は熱気に包まれていました。



ポスター以外に学習者にあわせた自作のテキストや実際の教室活動で使用している教材も多数展示されていました。参加者は、教材を手に取り、写真を撮影する等、興味関心にあわせて見学していました。



参加者の方々からは、「どのグループからも頂きたい試みがありました。心に置いて、また状況に応じて使わせて頂きます」と感想をいただきました。

<主な活動内容>

日本語教室開催 火、木、土、日曜日 4教室 10時～11時30分開催

原則としてボランティアが学習者に1対1で、レベルとニーズに合わせて学習支援を行っています。

日本語でしゃべろう会 日本語でおしゃべりをします。その時々身近な話題を取り上げます。自由な発想で自らを語り、相手にも質問し、お互いを知り、理解し合って交流を深めます。組み合わせは4～5人で、毎回組み合わせを替えます。原則として月末に教室ごとに行います。土、日の教室は一年に二回ほど、子ども学習支援部と一緒に、しゃべろう会を行います。

スピーチ発表会 教室ごとに3月初旬に全員参加で行います。学習者が司会・進行をします。テーマは自由。地域の人に見学・参加を呼び掛け、スピーチ終了後交流会を行います。土、日は子ども学習支援部と共催です。



<参加者のコメント>

- ・学習者さんによる料理教室・図書館での図書の読み聞かせなど、学習者さんの活動の場があることは良いと感じた。
- ・「日本語でしゃべろう会」は気軽に参加できる方式でおもしろいと思います。
- ・外国人の方が料理を教えるなど主体的にかかわること大変意義が大きいと思います。
- ・お料理教室の案は素晴らしいと思います。多文化共生への第一歩として素晴らしい！



私たちの会は
外国の人たちに、「日本に来てよかったな。
鶴見に住んでよかったな。」と思ってほしい
と、心から願うボランティアの集まりです。

鶴見区には、約9,450人も多くの外国籍区民の方が住んでいます。
これは区民30人に1人が外国籍区民ということになります。
私たちの会は、身近な地域で、日本人区民と外国人区民が
交流を深めて、お互いの文化を理解し、仲良く生活していくこと
を目的としています。

主な活動



第一学習社『世界史A』に掲載された
私たちの日本語教室の学習風景

会員数：85名
日本語ボランティア：約40名
日本語教室学習者：1学期 約70名



日本語教育

- (1) 日本語教室
 - 金曜日と土曜日に、計7クラス
 - 年3学期（春・秋・冬）、各10回
- (2) 日本語教育委託事業
 - 中国人研修生（2005～2008年）
 - インドネシア人労働研修生（2011年）

各学期スケジュール				
クラス	期間	時間	場所	
春学期	初級A	2014/1/10～2/14	18:30～20:15	鶴見国際交流センター
	初級B			
秋学期	初級A	2014/1/11～2/15	10:00～11:45	
	初級B			
冬学期	初級A	2014/1/11～2/15	18:30～20:15	
	初級B			
※定費、¥2,500/学期				

国際交流

- バス研修旅行、着物体験、茶道体験、防災教室、一品持ち寄りパーティーなど、地域の他団体や行政の協力を得て、各種交流イベントを開催、国籍を超えた交流の場を提供。



国際理解

- 知ることから始めよう！
- 私たち日本人が学習者の意を理解しよう
と、学習者による自国紹介の講座を実施。



ネパール トルクメニスタン バングラデシュ

日本語教室の活動

会話クラス（初級、中級）



クラスレッスン(75分)+ 個別指導(30分)

- 授業は直接法によるクラスレッスン。
- 場面設定を大切に、みんなで楽しく学習。
- 学習者は1クラス5～10名前後。
- 授業担当者が75分クラスレッスンした後、学習者を少人数に分け、ボランティア全員が30分の個別指導を担当して、学習内容を確認。

期末試験・修了式



なぜ <クラスレッスン+個別指導> か？

- クラスレッスン形式では学習者同士が教え合ったり刺激し合ったり、交流の場ともなる。
- 個別指導では毎回メンバーを組み替え、さらに交流を深めている。タスクシートは自宅学習にも使える。

テキストは？

- 緊急電話・ゴミの分別・地震など実際の生活場面の会話。
- 発音当初二重線を添えて手作りしたテキストに、その後市販のさまざまな教材を参考にしながら何度も手を加え、現在は初級・中級・読解A・読解B、計14冊ある。
- 初級と中級は6冊が音読の読書帳も作成。



読解クラス（読解A、読解B）

- 会話クラス修了者が読み・書き・聞き・話す力をつけることを目指して、テキストの音読、読解、文法、漢字などを学習している。



教材とタスクシート

- 授業担当者は、教材と個別指導用のタスクシートを作成。
- 毎週、次週の教材とタスクシートを検討、全員で意見交換。
- 「到達目標/主要学習項目/新出語彙/注意点/手順」などを確認し、クラス活動と一緒に作り上げていく。
- 教材とタスクシートはファイルして、共有している。



お問い合わせは、ホームページ <http://www.konnichiwa.org> から「事務局」をクリック、「お問い合わせ」にメールしてください。

<主な活動内容>

私たちの会は、外国の人たちに「日本に来てよかったな。鶴見に住んで良かったな」と思ってほしいと、心から願うボランティアの集まりです。「日本語教育事業」、「国際交流事業」、「国際理解事業」を三本柱として活動しています。メインの活動は「日本語教室」です。横浜市鶴見区で金曜日と土曜日に計7クラスを開設、年3学期（春・秋・冬）、各学期10回の授業を行っています。「国際交流事業」としては、地域の他団体や行政の協力を得て、バス研修旅行、一品持ち寄りパーティー、茶道体験、着物体験、防災教室等を開催、「国際理解事業」としては、学習者による自国紹介の講座を開催しています。

<参加者のコメント>

- ・「クラス+個別指導」がとても良いと思います。
- ・20年も活動が持続していったのはスゴイことだと思います。
自作テキスト等の工夫もみられてメンバーのコミュニケーション力を感じます。
- ・近所の学校の生徒さんとの交流は取り入れたいと思いました。
1対1の固定化を防ぐ、方法も参考にさせていただきたいと思います。
- ・場面設定を交えての勉強は学習者にとってとても役にたちますね。



外国人親子カンガルーサロン

— 安心・役立つ 親子の居場所づくり —

1. 設立経緯

背景

- 日本での子育て— 情報不足・孤独・子どもの心配— 日本語が話せない
- 平成23年度 横浜市・日本国際交流センター主催「子育て」をテーマにした日本語教室の運営
- 教育実習型研修— 一泊二日の研修（1泊1日）・卒業生へのフォロー
- 主催：日本国際交流センター 協賛：鶴見国際交流ラウンジ セール：横浜市立国際交流センター「親子日本語教室」事務局 主催
- 研修受講者を中心に設立準備 鶴見国際交流ラウンジの運営とアシスト

2. 概要

就学前の親子のサポート、社会参加のきっかけ作り

14年度 平成24年3月～平成25年3月（月2回、金12回）
15年度 第1期：平成25年4月～7月（月2回、金9回）
第2期：平成25年8月～12月（月2回、金9回）

主催 鶴見国際交流ラウンジ 協賛 主催

会場 就学前の外国につながる子どもと保護者（0歳～就学前）
タイ、韓国、オーストラリア、インド、ブラジル、中国、ペルー、ロシア、フィリピン、インドネシア、オランダ

講師 専任スタッフ2名、親子ボランティア2名、保育ボランティア2名
子育てのテーマに沿って、必要な日本語・情報の紹介、手遊び歌、読み聞かせなど

テーマ 保育者・保護者、育児・育児、行楽・お弁当、手遊び歌、防災、食育

親子一緒に参加できます

保護者にとって

子育て・結婚情報、日本語学習
子どもの成長に合わせたサポート
正しい方法、最新情報

親子にとって

外国の情報— 安心・役立つ

子どもにとって

遊びを通して
社会性を育む
異文化への理解

3. プログラム内容

・子育てに必要なテーマに沿った日本語や情報を紹介
・手遊び歌・読み聞かせなど

- ① 手遊び歌、読み聞かせ
- ② 日本語（保護者）
- ③ 子どもの遊び（学び）
- ④ 子育て情報

タイムテーブル：

時間	活動
10:00	名札記入・アンケート記入（新着）
10:20	全体で、① 手遊び歌・読み聞かせ
10:30	② 日本語コーナー ③ 子どもコーナー
11:05	休憩
11:10	全体で、④ 子育て情報
11:45	名刺付け、お別れの歌

参加者 事前アンケートより

① この教室へ参加の目的を教えてください。

- 自分の日本語学習
- 教室から情報を得る
- 子どもの成長について
- 子どもの日本語学習
- 自分の成長について

② 日本で生活していて、困っていることはありますか。

- 言葉、コミュニケーション（多言語）
- 読み聞かせ（読み聞かせの重要性）
- 子どもの成長について
- 子どもの成長について
- 子どもの成長について

子ども

手遊びうた・よみきかせ

- シンプル、動きながら日本語の導入にもなる歌
- ex「あたまかたひびきん」「むすんでひらいて」「とんとんとんひげいさん」
- 参加型紙芝居、絵本
- ex「みんなであそび」「びよーん」
- “実物”も用いて子どもを引き込む。
- オナマトベ

絵本・紙芝居が始まる → 聞く姿勢
歌が始まる → 声を見て真似する
言葉を読み返す
子どもの反応を見て楽しそうに、保護者も嬉しそうに楽しむ人も

日本語

- コミュニケーション重視
- 教室を出たらすぐに使える日本語
- テーマに合わせた読書・活動
- 予約権 → アルゲーム、虫の手紙、病気・病院 → 遊びの楽しみ方、診察券 etc

体を動かしながら学ぶ。
兄弟の活動 → 学習者に先生役をしてもらう → 卒業

体を動かす → 日本語の表現・文型を効率よく理解
→ 読書が苦手な学習者も理解できた
→ 学習者が先生役 → 自信、意欲に → 卒業（通訳）
ペアワーク → 学習者同士・学習者とボランティアの交流、情報交換

子育て情報

- 各テーマの専門家の協力
- 多言語資料の紹介
- イベント（お弁当づくりなど） → ラウンジ協賛者との連携
- 最新情報や最新の情報など、様々な情報も得られるように。
- 読書の利用など、具体的な行動。
- ゲストにとっても、外国人とのコミュニケーション（やさしい日本語での情報提供）について考える機会に

【原簿更新】
鶴見区・青森区・川崎市

【おにぎり・お弁当作り】

【お餅作り】
4日 日本のお餅作り

【小冊子作成】
鶴見区・青森区・川崎市

PDCAサイクル

参加者に合わせ、できることから工夫・検証

協力・連携

ラウンジ・区・外部団体等

1回の参加でも役に立つ
生活の変化を捉えて
得て楽しめる場

時にはお任せする
保育ボランティア
親子ボランティア

参加者から支援者に
日本で子育てする先輩
経験者のきっかけ

<主な活動内容>

- ① 目的：就学前の親子のサポート、社会に踏み出せるきっかけ作り。
- ② 内容：子育てに必要なテーマに沿った日本語や情報を紹介。手遊び歌や絵本の読み聞かせも有。
- ③ 対象：就学前の外国につながる子ども（0歳～就学前）、および保護者
- ④ 活動場所・活動時間：鶴見国際交流ラウンジ 月曜日 10時～12時（月に2回、年に12回程度）
- ⑤ 費用：無料

<参加者のコメント>

- ・ 日本文化・情報提供というステレオタイプ的なものの紹介に陥りがちであるが、各分野における専門家を招いての信頼性・実践性の高い情報提供の場となっているのが素晴らしいと思います。
- ・ いろいろな人が参加する結び目になっていていいなと思いました。各地域に欲しい！
親子とどうつながるか、この次のステップにどんな活動があるか広がっていくといいですね。
- ・ 子どもの目線で教材や教具などが整えられていて、ボランティア方の心意気が感じられました。
広くPRされ多くの対象者が参加されることを願います。



横浜市日本語学習コーディネーター業務（横浜市委託事業）平成24年度教室実習型研修（日本語教室）
公益財団法人横浜市国際交流協会（YOKE）

横浜市日本語学習コーディネーター業務（横浜市委託事業）平成24年度教室実習型研修（日本語教室）
公益財団法人横浜市国際交流協会（YOKE）

横浜で暮らす人のための初期日本語教室

具体的な教室活動のプログラム例の作成・公開を兼ねた

日本語学習支援者（ボランティア）研修

- 主旨とねらい
- ・「多文化共生のまちづくり」のための日本語学習支援活動とは？教室活動の具体化
 - ・横浜における公的日本語教室のあり方を考える



- ・日本語入門初級レベルの人が対象
- ・自立・自己実現・社会参加を目指す（日本語で自分自身の「声」を聞かせることのできる土台作り）
- ・地域日本語教室で活動する支援者が対象
- ・観察・体験を通じて自分の現場（教室）で、どのように応用・実践できるか考える

実施者（YOKE）
プログラム例の
検討→作成試行→実施→公開

- 基本方針
- 生活場面と生活課題 ①実生活の場面や生活課題と結びつけた学習活動→学習者の自立・自己実現、社会参加
 - 多文化コミュニケーション ②日本人と外国人双方の「多文化共生コミュニケーション能力」の育成
 - 当事者性 ③外国人当事者の企画運営への参加

活動内容の一例

生活場面と生活課題 健康・病気・けが

生活場面や課題とむすびつけてテーマを設定し、日本語でできるようになることを重視した活動を展開



- 病気・けがのことを絵カードで確認
- 病院でのやりとりをビデオで学ぶ（多言語のスクリーンも活用）
- 病院でのロールプレイ（各グループでの学習活動後に実施）

- ※言葉の構造（文法等）もわかりやすく習得しているように配慮した。
- ※また、ただ単にある場面のもとで表面的に「用を足す」ことの練習に留めず、この活動をきっかけとして自分たちの経験等を話しあったり、教室外の実践活動に結びつけていく。

<概要>

「多文化共生のまちづくり」のための日本語学習支援活動の充実を図るとともに、公的な日本語教室の在り方を検討することを目的として、具体的な教室活動のプログラム例の作成・公開を兼ねた日本語学習支援者研修を行いました。

教室実習型研修とは、学習者にとっては「日本語教室」であり、支援者にとっては「教室活動の観察・体験」といった2つの役割を兼ね備えています。

基本方針：

- ・実生活の場面や生活課題と結びつけた学習活動 → 学習者の自立・自己実現・社会参加を目指す
- ・日本人と外国人双方の「多文化共生コミュニケーション能力」の育成
- ・外国人当事者の企画運営への参加

<参加者のコメント>

- ・中国・ベトナムの方が講師として参加されているのはとてもいいと思いました。こういう人が増えて、地域の中心になってくれるといいですね。
- ・「生活場面や生活課題」に関連した本当に役に立つ情報をわかりやすくサポートしたいと常に感じます。絵カードはとても役立ちますね。

多文化コミュニケーション

よこはま発

日本語学習者と一般の日本人参加者がお互いにコミュニケーションの取り方を学びあう



- ・一般の日本人参加者を募り、学習者からのインタビューに答えたり、対話の相手になってもらう。
- ・日本語学習者は、一般の日本人参加者と日本語を使い、コミュニケーションの充実感・達成感を感じたり、些細い楽しみを味わった。
- ・参加者からも「やさしい日本語で話せば話せるんだ」と感じることができた。「うまくコミュニケーションができなかった場合にはどのような工夫をするか」というような考えを共有する機会になった。「横浜には、こういう人たちが実際に暮らしているんだ」と知って胸が良かった」と等といった声を聞くことができた。

当事者性

講師とともに、中国・ベトナム出身の日本語教師が講師アシスタントとして活躍
外国人の視点や声を重視し、協働でプログラムをつくり上げる



- ・日本語を学習した経験を持つ外国人当事者が講師アシスタントとして企画運営を行った。講師とチームで授業内容を活性化し、日本での生活の体験談を語り、学習者との共感がうまれていた。
- ・講師アシスタントの活躍を通して、「外国人」がいままで日本語を「教えてもらう」だけでなく、今後日本語を習得しようとしている存在だということを示すことができた。

成果 ～実践の出発点として～

- 日本語教室活動例がプログラムとして具体化できた
- 学習者の言語習得を「自己実現」「社会参加」につなげる可能性が高まった
実生活の場面や課題と結びつけた学習活動の実践と、そこから創りだす
- 日本語支援者同士、教室を超えたネットワークができた
「よこはま発」のネットワークにもつながり、発展、活動の
- 日本人にとっても「多文化コミュニケーション能力」を育てる場となった
日本語でのコミュニケーションに加え、地域に在住外国人を知る機会
- 外国人当事者が運営に参画する必要性が明確になった
講師研修での活動、ロールモデルとしての役割など
外国人当事者と協働し、プログラムの企画運営を実現

課題

- 今後は学習者、支援者、その関係者と共に対話し、連携を作り、協働することにより「自己実現」や「社会参加」につながる地域日本語教室の検討、改善をしていくことが必要である。
- 本プログラムにご関心のある方へ
横浜・日本語学習支援活動相談
地域日本語教室からの依頼により、教室の運営や活動内容について、日本語教室の専門家（講師アドバイザー）が、相談をしながら課題解決に向けたアドバイスをします。
- 研修会
本「横浜で暮らす人のための初期日本語教室」のプログラム、または「YOKE日本語教室教材講座」の活用に関する研修会を、横浜市の地域日本語教室・国際交流サロンで行っています。

第2部「日本語教育の専門家をまじえたディスカッション」:

ポスター発表後のディスカッションでは、嶋田和子先生を進行役にお迎えして、ポスター発表を通して感じたことなどを話し合いました。また、感想シートに書かれた参加者からのコメントが紹介されました。「学習者さんによる 料理教室・図書の読み聞かせなど学習者さんの活動の場があることは良いと感じた」、「行動・体験に根ざしたコミュニケーションの学習は本当に効果が高いと思う」などの感想とともに、参加者の方からもご自身の体験や教室での取組みをお話いただきました。

また、金沢国際交流ラウンジ日本語部会の学習者アンケートをもとに、「学習者が日本語教室でいたいこと・これから日本語をどのようなことに役立てたいか」について、掘り下げて考えました。

さらに、自分たちの教室の魅力や強みを知ることと同時に大切なのは「足りない点を知ること」で、足りない点を知るためには、お互いに活動を発信し合い、他の団体や機関と協働することで、補完し成長していくことができると、教室づくりのポイントも参加者全員で学びあいました。



<参加者の声>

- ・興味あるブース（掲示板）の方と集中して話が出来た。
- ・教え方の単なるスキルではなく、多文化共生のまちづくりの一環としての日本語学習支援が大切ということがよく理解できました。
- ・様々な参加者が自分の体験や教えていることを発表し、興味深かったです。
- ・定期的に活動できる場所の提供（公・民を問わない）をしてほしい。
- ・教室に閉じこもっていると他の教室でどんな活動をしているのか不安になる。もっと皆さんが集ってお互いの情報を知ることができるような企画をお願いしたい。

<参考> ポスター展示 「横浜市・地域日本語教室の取組み」

事例発表会に先がけ、1月14日（火）～1月19日（日）まで、会場の男女共同参画センター横浜（フォーラム）2階「生活工房ミニギャラリー」にて、発表ポスターの展示を行いました。
ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。

